

未来社会協創構想アクション・プラン

1. 地球規模の危機への対応 ～持続可能な Global Commons¹へ～ (分科会①)

【アクション・プラン①】

イ) ゴール

- Cyber-physical の両空間の統合を踏まえた system change / transformation のための評価指標、フレームワークの開発(領域:食料・土地利用システム、生産・消費システム、都市システム・エネルギー・システム、社会システム)
- 国連の SDGs の動きなどへの打ち込み
- デジタル・ガバナンスおよび SDGs との接合についての検討

ロ) アクション

- **Global Commons Center の設置による持続可能な社会の先導**

ハ) アクション主体

- 未来ビジョン研究センター+関連教員(非常に多くの教員が関係するため今後連携の強化を図る)

ニ) 関連部局のご協力を仰ぎたい具体的アクション

- Global Commons Center の立ち上げにご協力いただき、設置後は運営委員会にご参画いただきたい
 - 工学系研究科
 - 農学生命科学研究科
 - (活動の広がりに応じて様々な部局への関与を依頼)

ホ) タイムフレーム

- 組織体制の整備:令和 2 年度内
- アウトプット:令和 3 年度内(ただし、令和 2 年度内にできるだけアウトプット)

ヘ) 分科会での関連するアイデア

- Stewardship toward Global Commons についての研究 (cyber-physical の統合を踏まえ、DFFT に代表されるデジタル・ガバナンスについての検討を含む)

¹ Society 5.0 などに示されるように今後物理空間とサイバー空間は高度に融合していくため、データ空間のルール整備、物理空間の環境政策を有機的に実施し、両者を統一的なグローバル・コモンズとして保全する必要がある。

【アクション・プラン②】

イ) ゴール

- 学内におけるマルチ・ステークホルダー対話の推進、コアリションの形成

ロ) アクション

- **Global Commons に関する学内における学生を含めた対話の強化**

ハ) アクション主体

- 未来ビジョン研究センター＋関連教員（非常に多くの教員が関係するため今後連携の強化を図る）

ニ) 関連部局のご協力を仰ぎたい具体的アクション

- アクション①でご協力いただく部局の教員および未来社会協創国際卓越大学院（WINGS-CFS）参加教員を中心に、対話集会に参加すると同時に、各種教育プログラム（WINGS-CFS、GLP-GEFIL など）の学生や TSCP 学生委員などへの参加の呼びかけを依頼したい

ホ) タイムフレーム

- 令和 2 年度内に対話集会を行う

ヘ) 分科会での関連するアイデア

- Global Commons の取り組みに関して学生等の関与を拡大

2. 世界の分断・知の分断を乗り越える（分科会②）

【アクション・プラン】

イ) ゴール

- 日中の多数の学生の教育の場でもある東アジア藝文書院のグローバルな展開により、世界の学生に多様な価値への寛容さを教育する
- 多様な価値を受け入れられる対話の場をグローバルに拡張する

ロ) アクション

- 東アジア藝文書院を IARU² 加盟大学全体が参加するグローバルな教育プログラムにスケールアップ

ハ) アクション主体

- 東洋文化研究所、総合文化研究科、未来ビジョン研究センター

ニ) 関連部局のご協力を仰ぎたい具体的アクション

- 東アジア藝文書院を IARU 教育プログラムとして推進するため、以下の 2 点につき、ご協力を仰ぎたい
 - ① 東洋文化研究所・総合文化研究科の教員参加を組織として今後も支えていただくと共に人文社会系研究科から教員が参加する可能性を模索すること
 - ② 上記三部局からの学部生・大学院生の参加も継続的に行われるよう支援の継続を求めること

ホ) タイムフレーム

- 令和 2 年 4 月の IARU 学長会議において提案し、各大学の同意を取り付けていく

ヘ) 分科会での関連するアイデア

- 自分の頭で考え、知/価値の相対化、他者を尊重できる人材の育成、方法論・場を提供
- 東アジア藝文書院、産学官民を巻き込んだ議論の場の提供
- 多様な価値を受け入れられる対話の場の構築

² IARU とは、International Alliance of Research Universities（国際研究型大学連合）。2006 年設立。将来の世界的リーダーを養成するトップクラスの 11 研究大学による、教育研究における連携推進を目的とした大学連合。東京大学は本年度の議長。

3. インクルーシブ・イノベーションの創出 ～Society 5.0を超えて～（分科会③）

【アクション・プラン】

イ) ゴール

- キャンパスのファシリティ(施設関連)のみならず、ソフト面(制度や仕組み)においてエクスクルーシブとなっている課題を特定し改善する継続的活動スキームの構築。

ロ) アクション

- **徹底的にインクルーシブなキャンパスの推進**
- インクルーシブ・キャンパス検討会の設置
- キャンパス全体のインクルーシブネス向上のため、多角的な立場の意見をもとに現状のキャンパスが抱える課題を抽出する。
- また他施設、他大学などの事例を参考に、現在取り組んでいる活動において見落とししている課題を特定する
- 全学の取り組みとなっているジェンダーおよび地域におけるキャンパス構想との連携も対象。

ハ) アクション主体

- IFI を取りまとめとし、下記主体の活動状況とのリンクを考慮する
 - TSCP+学生委員会
 - 施設部
 - 教育学研究科 バリアフリー教育開発研究センター
 - 東京大学男女共同参画室
 - IARU(国際的な連携として IARU を活用)
- 関連する FSI アドバイザー(田口亜希様など)にご助言(乃至ご協力)いただく。

ニ) 関連部局のご協力を仰ぎたい具体的アクション

- TSCP 運営連絡会および、総合文化研究科(駒場)、農学生命科学研究科(弥生)の部局における、インクルーシブ・キャンパス検討会設置の協力
- 問題意識:ジェンダーについて全学の取り組みをどのように具体化していくかも対象とする

ホ) タイムフレーム

- 令和2年度内:定期勉強会の開催 5~6 回程度?(ワークショップ形式のアイデア出しなどを含む)による課題の認識共有
- 令和3年度開始時点で予算スケジュールを考慮した現実的な計画を設計

ヘ) 分科会での関連するアイデア

- バリアフリーも日本の大学の中で最もそういうことに配慮した大学につくり替えるとか、そういうことをやるのがいいと思う
- 徹底的にインクルーシブなキャンパス